

2023年度第3四半期 決算説明会

2024年2月6日

広栄化学株式会社
代表取締役社長 西本 麗

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



◆ 1 .会社概要		2
◆ 2 .2023年度第3四半期決算概要		7
◆ 3 .2023年度業績見通し		13
◆ 4 .今後の業績見通し		17
◆ 5 .配当政策		21

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



◆ 1.会社概要		2
2.2023年度第3四半期決算概要		7
3.2023年度業績見通し		13
4.今後の業績見通し		17
5.配当政策		21

1. 会社概要

100年の技術と信頼を明日へ



(1) 会社概要

①設立 1917年6月17日

②資本金 2,343百万円

③社員数 421名 (2023年12月末)

④拠点

東京本社：
東京都中央区日本橋小網町1番8号

千葉事業所：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

ベルギー事務所：
駐在員（住友化学ヨーロッパ出向）



千葉事業所

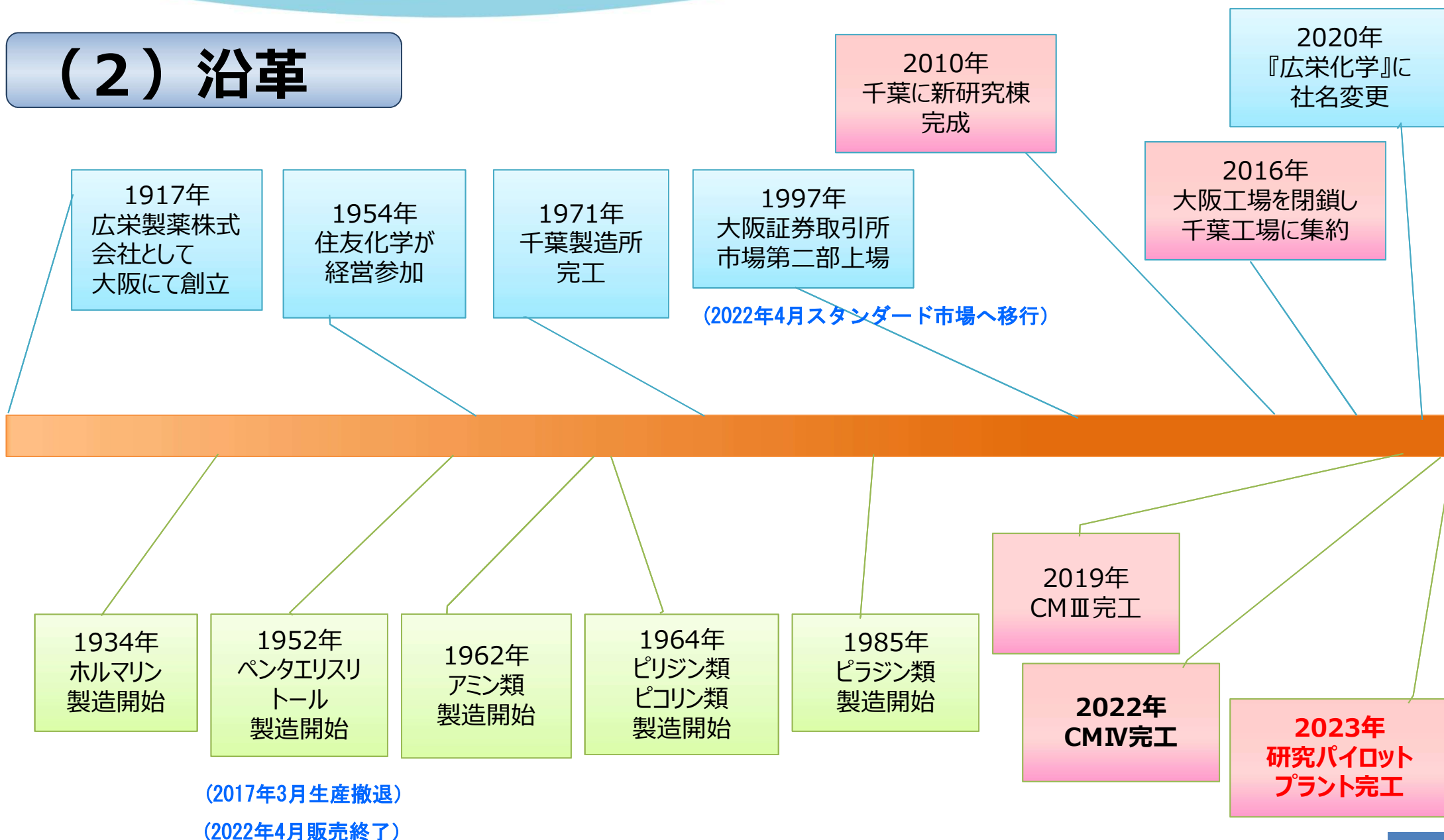


東京本社



1. 会社概要

(2) 沿革



1. 会社概要

(3) 事業内容 ① 基盤製品

広栄化学は、含窒素化合物のパイオニアです

ピリジン類

主な用途

医薬原料・農薬原料
電材関連・溶剤等

国内唯一の合成
ピリジンメーカー



ピラジン類

主な用途

結核薬ピラジナミド

ピラジナミド原料CPZは、
世界シェアNo.1



ホルマリン

主な用途

接着剤・塗料・樹脂・酸
化防止剤等

アミン類

主な用途

界面活性剤・樹脂
塗料・潤滑油
ゴム薬・
CO₂吸収材等

数十種類の特殊アミン製造
少量多品種対応



1. 会社概要

(3) 事業内容 ②カスタム合成製品

医農薬中間体

培ってきた含窒素化合物の合成技術を生かし、
独自工業化プロセスを開発

国内外多数の製薬会社に
医薬中間体を供給

有機金属触媒

ポリオレフィン用重合触媒
であるメタロセン触媒に代表される
有機金属触媒を製造

有機合成技術と禁水・禁酸素
条件を組み合わせる
プロセスを構築

その他受託製品

電子材料関連製品等

(3) 事業内容 ③機能性製品

イオン液体

主な用途

帯電防止剤・電解液
溶媒等



ウレタン関連製品

URECKO®
KONPUS®

カスタム合成製品・機能性製品は、主にマルチプラント（CMⅠ、CMⅡ、CMⅢ）で生産
2022年10月に、新たなマルチプラント4系列目（CMⅣ）が稼働。

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要		2
◆ 2 .2023年度第3四半期決算概要		7
3 .2023年度業績見通し		13
4 .今後の業績見通し		17
5 .配当政策		21

2. 2023年度第3四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(1) 第3四半期決算ハイライト

(単位：百万円)

	2023年度 3Q実績	2022年度 3Q実績	増減 (前年同期比)
売上高	13,060	13,174	△114
営業利益	323	1,048	△725
経常利益	234	1,072	△837
四半期純利益	166	794	△628
1株当たり利益	33.98円	162.42円	△128.44円

2. 2023年度第3四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(2) 売上高 … 製品グループ別【前年同期比】

(単位：百万円)

	2023年度 3Q実績	2022年度 3Q実績	増 減	増減の主な内訳
医農薬化学品	6,934	5,554	1,379	農薬関連 (↑) 結核薬原料 (↑) 腎疾患薬等関連 (↑)
機能性化学品	4,338	5,784	△1,445	触媒関連 (↓) 電子材料関連 (↓) イオン液体 (↑)
そ の 他	1,786	1,835	△48	
合 計	13,060	13,174	△114	(数量差△424、売価差+310)

2. 2023年度第3四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(3) 売上高 … 輸出地域別【前年同期比】

(単位：百万円)

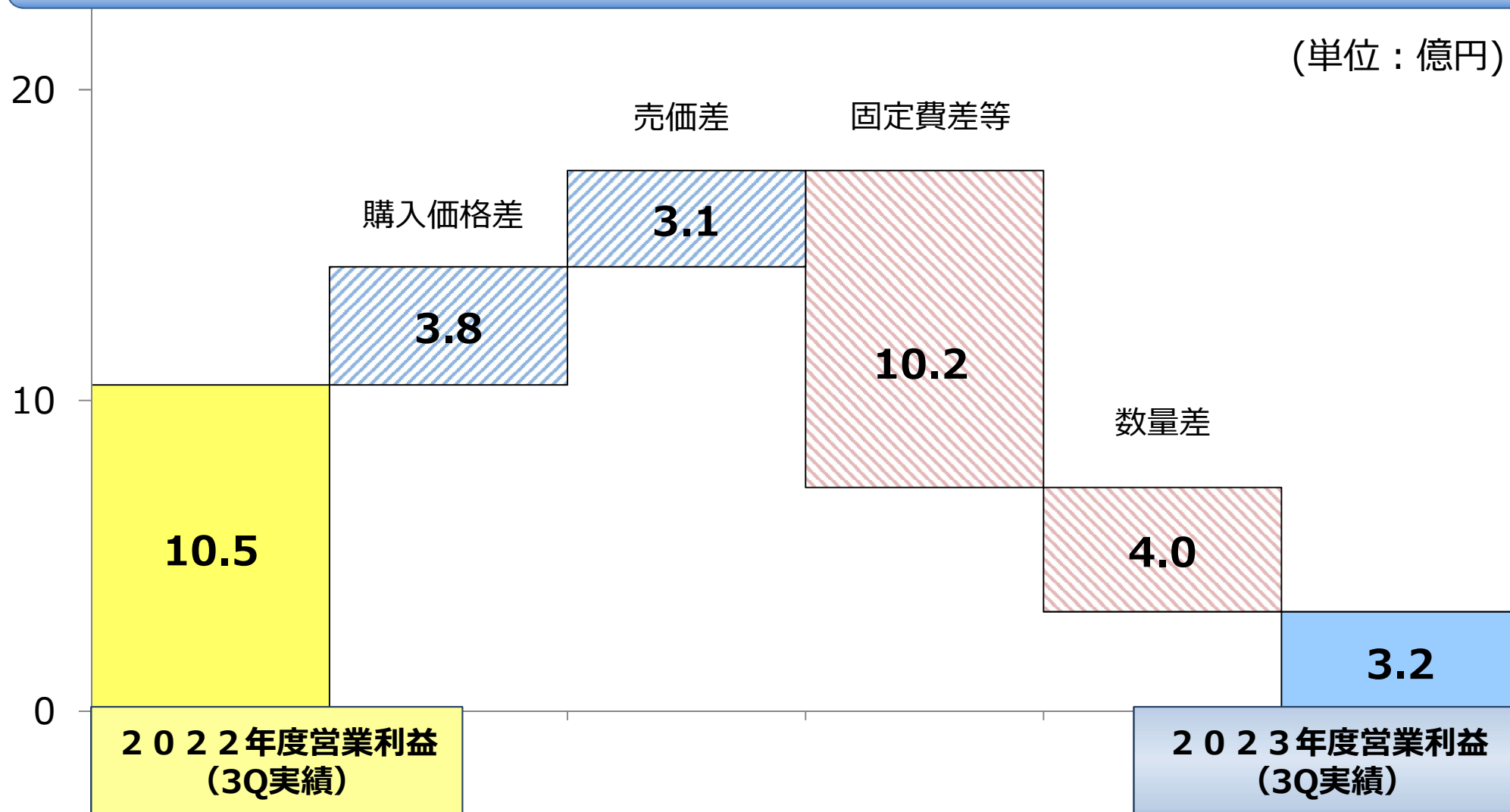
	2023年度 3Q実績	2022年度 3Q実績	増 減	増減の主な内訳
ア ジ ア	4,107	4,095	11	
北 米	1,296	1,252	43	
欧 州	2,631	2,269	361	腎疾患薬等関連 (↑)
そ の 他	0	8	△8	
輸 出 合 計	8,035	7,627	408	(円安によるプラス影響+169)
為替レート (円/米ドル)	(144.47)	(136.80)	(7.67)	
輸出売上比率	61.5%	57.9%	3.6%	

2. 2023年度第3四半期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(4) 営業利益分析【前年同期比】



2. 2023年度第3四半期決算概要

(5) 貸借対照表

(単位：億円)

借方科目	(2023年3月末)	(2023年12月末)	増 減	貸方科目	(2023年3月末)	(2023年12月末)	増 減
[資産の部]	390.8	396.4	5.6	[負債の部]	170.3	179.3	9.0
流動資産	149.3	162.7	13.4	流動負債	86.8	101.1	14.3
固定資産	241.5	233.7	△7.8	固定負債	83.5	78.2	△5.3
				[純資産の部]	220.5	217.1	△3.4
合 計	390.8	396.4	5.6	合 計	390.8	396.4	5.6

●主な増減要因（資産）

棚卸資産	+ 22.2億円
未収消費税	△ 9.3億円
有形固定資産	△ 7.0億円

●主な増減要因（負債）

買掛金	+ 14.7億円
借入金	△ 9.5億円

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



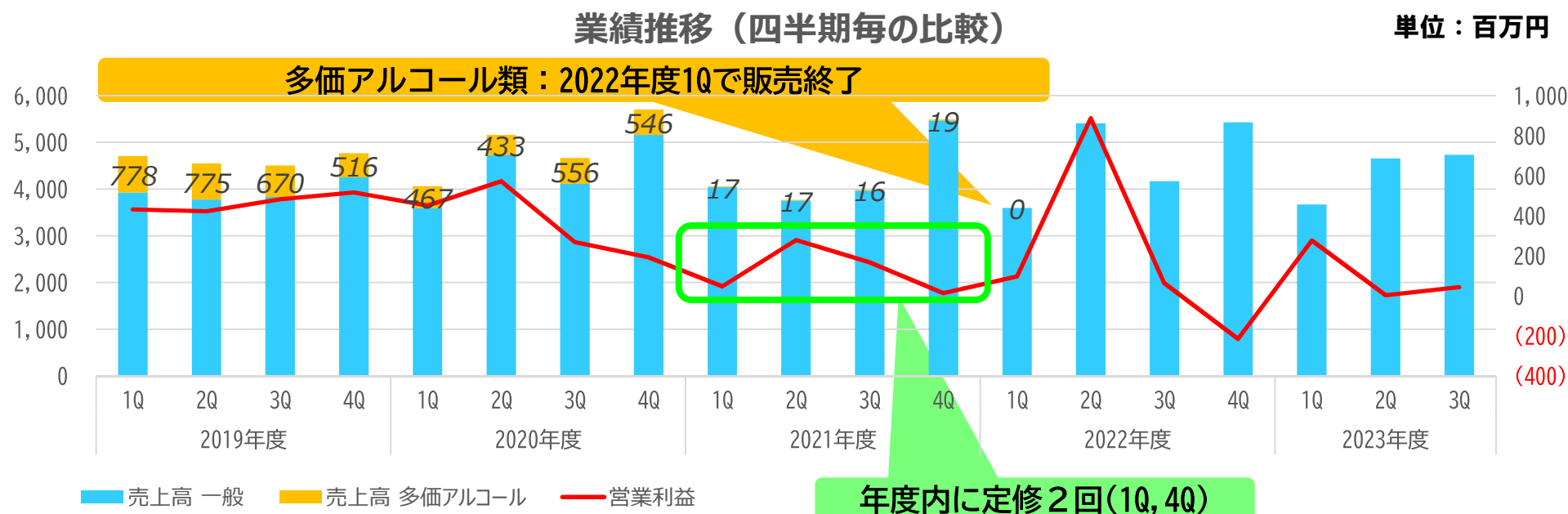
1 .会社概要		2
2 .2023年度第3四半期決算概要		7
◆ 3 .2023年度業績見通し		13
4 .今後の業績見通し		17
5 .配当政策		21

3. 2023年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(1) 直近の業績推移について



● 足元の事業環境

- ・医薬関連 需要：堅調 (—)
 - ・農薬関連 需要：底入れ (—)
 - ・触媒関連 需要：低迷 (↓)
 - ・電材関連 需要：低迷 (↓)
- 触媒・電材分野は回復遅れ
→農薬関連分野は回復の兆し

● 業績改善策

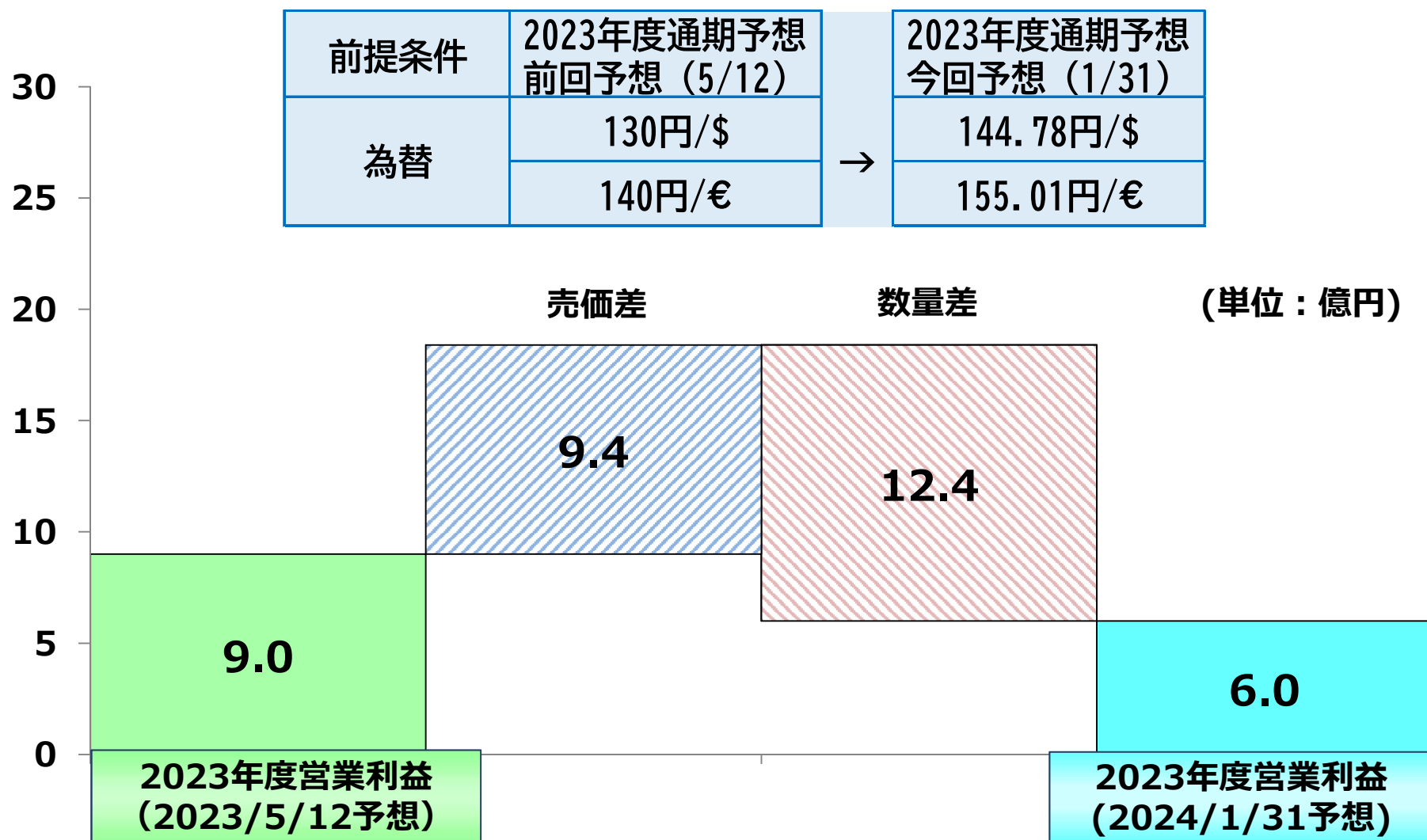
- ・新規用途の開拓等による販売数量増
→農薬関連製品の新規受注獲得
→CO₂吸収材の追加受注獲得
- ・合理化によるコスト削減
→経費等の効率運用を継続中

3. 2023年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(2) 前提条件・営業利益分析【当初予想比】



3. 2023年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(3) 2023年度業績予想【概要】

2024年1月31日公表（修正）

（単位：百万円）

	2023年度 今回予想	2023年度 前回予想	増 減 (前回予想差)	【参考】 2022年度実績
売 上 高	20,000	20,800	△800	18,601
営 業 利 益	600	900	△300	832
経 常 利 益	520	840	△320	855
当期純利益	400	630	△230	690

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要		2
2 .2023年度第3四半期決算概要		7
3 .2023年度業績見通し		13
◆ 4 . 今後の業績見通し		17
5 .配当政策		21

4. 今後の業績見通し

(1) 今後の事業環境と取組みについて

● 事業環境

		当期		来期以降
・医薬関連	需要：堅調	(—)	→	(—)
・農薬関連	需要：底入れ	(—)	→	(↗)
・触媒関連	需要：低迷	(↘)	→	(↗)
・電材関連	需要：低迷	(↘)	→	(↗)

➡ 2024年度は緩やかに回復

● 取組み

- ・新規用途開拓
- ・合理化によるコスト削減
- ・厳選投資

➡ 2024年度以降業績拡大へ

4. 今後の業績見通し

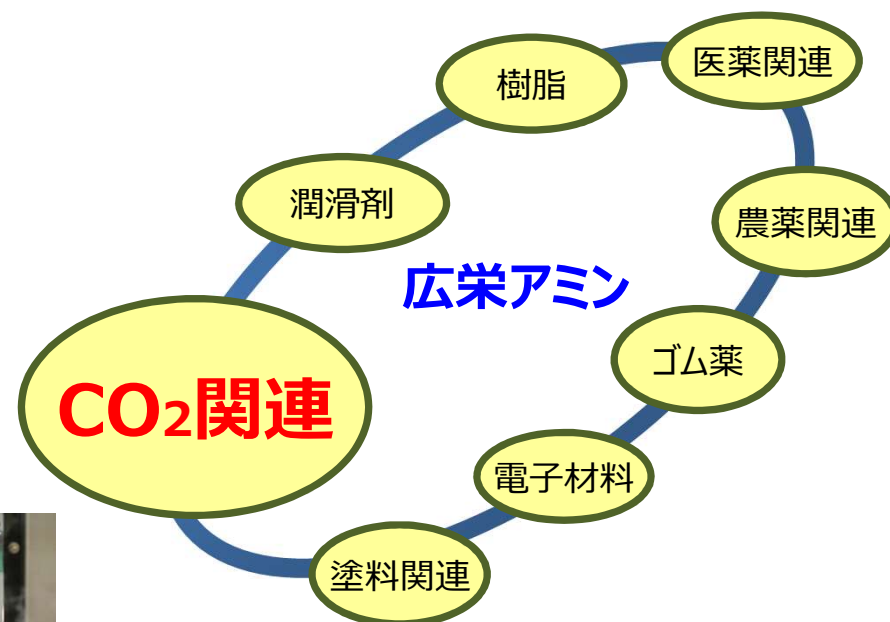
(2) 将来の改善ドライバー (CO₂吸収材関連)

アミン化合物の開発、供給を通して、2050年のCNの実現に貢献する。

- ✓ 100種類を超えるアミン化合物のラインアップ
- ✓ 有機合成技術を利用した要求の高度化への対応
- ✓ 川崎重工を含む様々な顧客への納入実績増加
- ✓ CO₂分離回収・資源化コンソーシアムへの参画



2030年に向けて商用化プロジェクトが各社で進んできており、安定供給に向けて検討を進めていく。
受託案件と並行して、CO₂吸収材の自社開発も推進する。



4. 今後の業績見通し

(3) 将来の改善ドライバー（有機金属触媒関連）

世界の主要ポリマーメーカーに有機金属触媒関連製品を供給中。



世界的な景気の停滞や物価高による個人消費の低迷等の要因により、2022年度下期以降の販売は低調に推移しているが、2024年度以降顧客での在庫解消が進み需要が戻ると見込んでいる。

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要		2
2 .2023年度第3四半期決算概要		7
3 .2023年度業績見通し		13
4 .今後の業績見通し		17
◆ 5 .配当政策		21

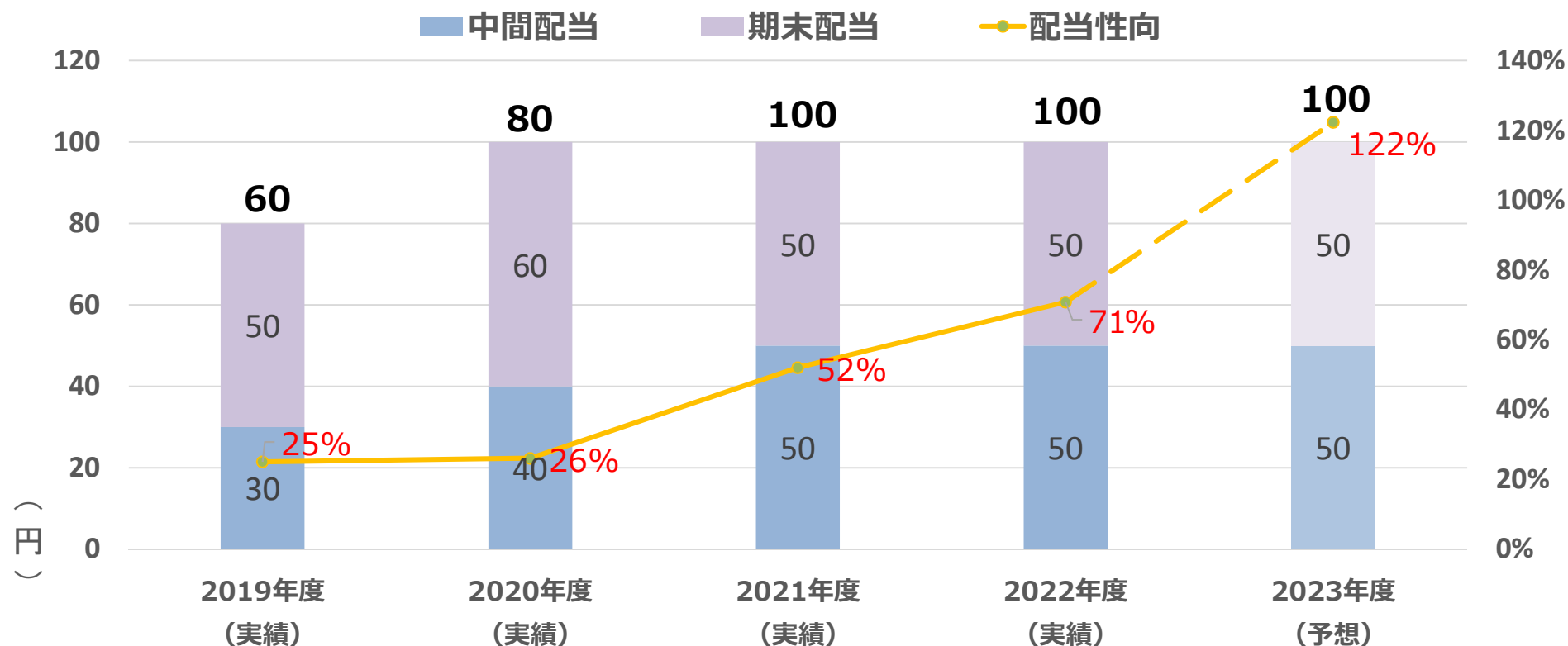
5. 配当政策

配当政策

配当は、株主の長期的かつ安定的な利益の確保と、会社業績の状況、将来的な事業展開に備えるための株主資本の充実などを総合的に勘案し決定する。

配当性向については、原則 50%を目途に株主還元を実施する方針とする。

配当実績予想（当初予想から変更なし）



ご清聴ありがとうございました。

【注意事項】

本資料には、当社に関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、研究開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。